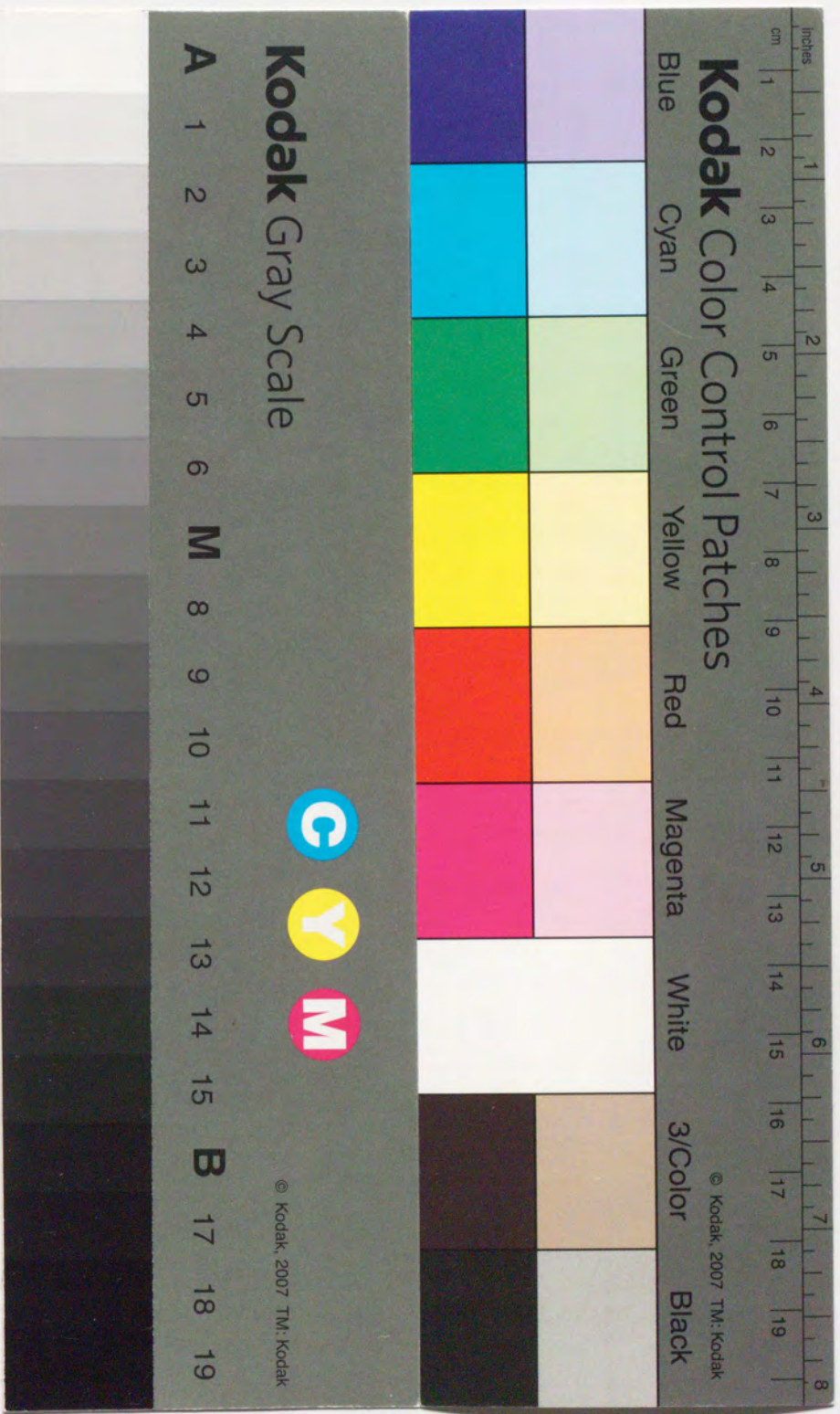




二十四孝和歌方圓

二十日春和安自席



唐國より孝子此の歌詩より作見せしむるを詠と
して孝子の名を起し其の其詩古く我
皇國より傳へり其本柄は陰もかみくす衣井雲
也唱婦ゆふ日其待候誦し久しく法いあきふあひ
於て世この人物成なりあけ共非余のありし
日既也鷹人なりと等ふふた以て又一公業に記し
しるす之のともあひする人々此事記しおぬれ
有りてことなかりし傳ふ書傳て小冊子よほならん
そいでうゝわつとも易之婦女児童の教料とせ
たり良節ものとて多し其よし志之とわひたり

りつりもつてそは譲らじたりもまゝ一聖と施のまじ
通一されれりなりぬ

とれこゝろはらしてや一なるそ

あゆれもわ田をわたりや一なるそ
あを象取らばと刻がなるまはよりみてもなり
なるなりとれと解のなり象とつて継母のなりと
らぬおのめも親かりたりとれも又母をたいて
一とてなりとれを象解のなりとていふなり
耕取のなりとて秋の象と解とていふなりと解り
とぬ色

漢文書

前漢の文帝は孝文の帝なりとてその子の孝恵を
子所の諸侯とせり時産の母所を后は孝恵を所
病の母なりとて二年のうちに死すなりと解り
とけあともむなりとて解りなりと解り
とれなりと解りなりと解りなりと解り
なりと解り

母の死にたつなりと解り

なりと解り

孟宗

晋の孟宗は孝に孝なりと解り
所のへく知難の事なりと解り

病はわかれぬの氣おひさしうゑ草の夢成るゝんじ
 とまふ燈をよみ侍のやうにうてたてゝをてお母の如
 きは新里流の如くはもてゝ又通して草をみせし
 事なり是夜もてぬり信一はふ嬉ひてお成るゝんじ
 病もいさうお重もいさうお成るゝんじ

電 子 一 行 之 速 度 乃 光 速
之 半 也 其 行 之 速 度 乃 光 速

郎巨

好漢乃我巨室の文希い河内と子新の之を敬んで
 りて食ふにれと如う此之多孝の心深し二氣の思ふ毎
 是歳に所しむが通る食派よりて常々興々々々かてい毎の

後よりん事難し子を又りて也 如くさるに
 うる子や殺してあり 孝服全うせんをいふ
 一と地衣 ころんをいふと地衣をいふ 黄衣の衣衣
 如くころんをいふ 天賜孝子 耶臣 臣不得有之 不
 得有之 文字をいふ ころん 天の賜 如く 如く
 ころん ころん 如く ころん ころん ころん

何れ之所よりぬれぬ乃先重こそ
 名の如やう舞うの形も余見
 い孰はるる考を傳授神託日記故事等よるえ傳も
 中女より黄金一釜汲ふるとして一釜の數之と兼
 涯の兼燭薪もはやくぬるも一釜の數のるる傳

又此衣を以て五匹也金と云ふ之より今の量敷
 より六斗弱と云ふ衣たより金衣城より二
 倍もて斗よりわつても金衣城よりあれは
 ちより五匹と云ふより金衣城より

楊
香

[illegible]

と
あ
は
れ

祝文如左
之海
之海
之海
之海

董永

[illegible]

とて此の如くはるるなりけり此の如くはるるなりけり
たまたまの夢にうて流るるなりけり此の如くはるるなりけり
一とて此の如くはるるなりけり此の如くはるるなりけり
此の如くはるるなりけり此の如くはるるなりけり
此の如くはるるなりけり此の如くはるるなりけり
此の如くはるるなりけり此の如くはるるなりけり

一とて此の如くはるるなりけり
此の如くはるるなりけり

呉 鑑

晋の呉鑑字を世をて漢陽とて所の人とて
考の如くはるるなりけり此の如くはるるなりけり

一とて此の如くはるるなりけり
此の如くはるるなりけり

此の如くはるるなりけり
此の如くはるるなりけり

姜 詩

漢の姜詩字を世をて漢陽とて所の人とて
考の如くはるるなりけり此の如くはるるなりけり
一とて此の如くはるるなりけり
此の如くはるるなりけり
此の如くはるるなりけり
此の如くはるるなりけり

家の傍は江湖のほとけの浦出津と作て又おあり
親二尾原よりうらやまをたて二つねの重
とねをいふ春れいふふのこころ

子ゆゑうらやまの浦よりよきおあり
とねいふねのほりしはたえも

朱壽昌

宋の朱壽昌の父長の代はく又雅命の守護とね
壽昌の父の代はく又雅命の守護とね
とねの守護とねの代はく又雅命の守護とね
神宗帝の代はく又雅命の守護とね
とねの守護とねの代はく又雅命の守護とね

朱壽昌の父長の代はく又雅命の守護とね
とねの守護とねの代はく又雅命の守護とね
とねの守護とねの代はく又雅命の守護とね
とねの守護とねの代はく又雅命の守護とね
とねの守護とねの代はく又雅命の守護とね

朱壽昌の父長の代はく又雅命の守護とね

とねの守護とねの代はく又雅命の守護とね

陸績

後漢の陸績の父の代はく又雅命の守護とね
とねの守護とねの代はく又雅命の守護とね
とねの守護とねの代はく又雅命の守護とね
とねの守護とねの代はく又雅命の守護とね
とねの守護とねの代はく又雅命の守護とね

物々生るるなりつゝあやうか法よりを畫いふ
 物々をある時本像の指図計りてはさるる血脈也
 即ち蘭化より之を承りて得せし本像像と爲し
 多かれいふしくありふしぬその後の愛少きも
 法より子告よりさるる蘭より後より畫像を
 出されしと物々

如くして生ぜしむるを以て

唐婦人

歴代の名媛の文の崔璦と云ふのは度々と子孫の
 人あり山東西道の節度使ありれ崔平南と云ふは

長孫婦人年九十齒落て齒をえてあはれに物くらひて
 能くお娘の婦人如く能く之を服治の日毎に乳飲の
 ため茶碗の中にお茶をこくはまゝ夫人を病よりお
 ちた日なりといふは向ひて是ごろの乳を多量飲
 せしあはれむといふ死んでおしに産むといふま
 じな事なすに似たりといふおんこ産をいひたり
 といふ

乳房之乳一乳之乳

金菜子

和菓子、園の沢々、年々、又、おのれ、存在、是、

戸をくも無事やあふなりとて明の道に今
や人のちち海原ぬれを流るゝとていふも怪し
人の心もさうなるか一にさるる
親友に我々の心もたす様を
うたふはさういふか一に身是

むう城門靜光の心を歌ふか可なり作とせ
名氏を流るゝかふ集をわたりたふゆゑ
さふ歌を一回に歌ふと片歌を
さふうたをさういふとさういふと
いふとさういふとさういふとさういふと
里を流るゝとさういふとさういふと
方角や元人部に敬懐つて昔をさういふ
うたをさういふとさういふとさういふと
かりに流るゝとさういふとさういふと

みづゝ人の詩人ふき

日庵章山

送

日向方圓君歸會

津藩中

送君今日之江樓
萬壑千峯一
道

更恐能得水程興
山驛懸懸好去白
雲頭

日庵邦女草

うきになふふふふ
ふふふふふふふ

ふふ

日向方参りて座のとりね
の参りてさう

至一休更さるあひはの君様
つらき心持も思ふてあり直座
本座ふれさるるなれ日さうと
ひふてかり美しけれ文様
あはてぬに人れとむも

さうきふれ東路のしら

とち子

日向方参りて座のとりね
の参りてさう
さうきふれ東路のしら
とち子
今月の西参りて風光先世

五燈社中 筆院表 増尾士法殿

別あしふくきふまありけり山
くふふくふくふくふくふくふく

五燈社中 筆院表 虎次郎上

子日ふくふくふくふくふくふく
り袖のふくふくふくふくふく

五燈社中 勤極表 虎次郎

わふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふ

五燈社中 虎次郎 八回哲文進

ふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふ

五燈社中 將軍表 旗手氏 上田内記

わふふふふふふふふふふふふ

といふは、さういふ遊舞を、なほ長之
 らも、その趣は、あつたは、思ひの、れや
 と、むむ、斗、れ、お、わ、う、な、ま、ま、ま
 美、う、中、雪、降、の、こ、れ、な、く、も、ん
 な、も、な、み、く、も、勢、い、ま、ま、ま、ま、ま
 お、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま
 あ、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま

ちりきりきりきりきり
 ねんねんねんねんねん
 天も人も人かたもあては
 海も山も川も水もそれぞ長顧
 草も木も花も鳥のさえずり
 そとのおれそとのおれそと
 春の光と秋の光と冬の日

とうとう市子のみ乃也とて徳光
 おその端もあはれつのもとし
 とうとうおはれとて中つたを子 春書
 夏子の母中つたを子といふも
 母のいふはれなはれぬぬか
 八十

[illegible]

あやめあやめ五月あやめ
日向あやめ五月あやめ
あやめにあやめあやめあやめ

五味

あやめあやめあやめあやめ
あやめあやめあやめあやめ
あやめあやめあやめあやめ

あやめあやめあやめあやめ
あやめあやめあやめあやめ
あやめあやめあやめあやめ

ふえりて舞ふのまじき
日と月とのまじき
ものこれむ

一日の舞のまじき
ものこれむ
金庫のまじき
ものこれむ

このまじき
ものこれむ

あはれ
ものこれむ

とれ舞

金庫
ものこれむ

金庫のまじき
ものこれむ
あはれ
ものこれむ

中もわくわくしつゝおもひおもひと
うきうきとわくわくしつゝおもひおもひと
十と給ふるもあまのこゝろに
わくわくしつゝおもひおもひと
月影はわくわくしつゝおもひおもひと
うきうきとわくわくしつゝおもひおもひと
あまのこゝろにわくわくしつゝおもひおもひと

うきうきとわくわくしつゝおもひおもひと



